

1 調査の概要

- (1) 対象児童 第6学年児童
 (2) 教科 国語科 算数科
 (3) 質問紙 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 ※本年度については、自校実施において自校採点の結果

2 本校の結果 「全国・北海道・伊達市との平均正答率の比較」

	令和2年度自校採点による本校の平均正答率と前年度平均との比較	令和元年度	
		本校の結果 ～全国と比べて～	全国平均正答率
国語	↗	↗	63.8
算数	↘	↘	66.6

※令和2年度は全国平均正答率との比較ができないため、前年度の自校平均正答率との比較を矢印で表記しています。

※令和元年度「本校の結果」欄の矢印は、本校の平均正答率と全国の平均正答率の差を表しています。

※「本校の結果」欄の矢印は、本校の平均正答率と全国の平均正答率の差を表しています。

↑～上回る ↗～やや上回る →～同程度 ↘～やや下回る ↓～下回る

3. 調査からみられる傾向および課題



【国語】

国語は、全国平均正答率を上回った昨年度をさらに上回る結果となり、基礎的・基本的な知識や技能や、身に付けた知識・技能を活用して課題解決に取り組む力は十分定着していることがうかがえます。

特に、話の内容をまとめたり、どのように伝えるかを考えたりするなど、「話す・聞く能力」を問う設問で高い正答率となりました。

しかし、主語・述語、修飾語・被修飾語の使い方など、「言語についての知識・理解・技能」の面を苦手とする児童が見られました。また、事実と感想を区別して書くなど、「書くこと」に関する問題が低い正答率となりました。

【算数】

算数は、校内、全国ともに昨年度の結果を下回る平均正答率となっていることから、課題の教科といえます。特に、正しい四則計算や、計算の仕方を解釈し、ほかの数値の場合に適用するなど、「数と計算」に関する問題を苦手とする児童が多く見られました。

また、自分の考えや求め方などを、式や図、言葉を使って記述する問題も低い正答率となりました。

一方、面積の求め方や単位換算など、「量と測定」に関する設問は正答率が高く、よく理解しているといえます。

【児童質問紙】

※過去3年間の伊達小の結果と比較して

○肯定的回答が高かった主な質問

- ・家の人と進路などの将来のことについて話することがある。
- ・携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っている。
- ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

●全国と比べて肯定的回答が低かった主な質問

- ・将来の夢や目標をもっている。
- ・学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上学習している。
- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり30分以上学習している。
- ・新聞を読んでいる。
- ・算数の勉強は好きである。
- ・算数の授業の内容はよく分かる。
- ・算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるように工夫してノートに書いて理解するようにしている。



4. 結果を受けての改善点として

今回の結果は、調査を実施した6年生の結果としてとらえるものではなく、小学校6年間の教育の積み重ねとしてとらえ、各学年での指導について改善と充実を図ることが大切であると考えています。

本校では、今回の結果から明らかになった課題に対して、次の改善策や手立てを実践しながら、児童の学力向上に向けて取り組んでいきます。

【学校では…】

◎「学力向上を目指した改善プラン」の作成

学力・学習状況調査の結果で明らかになった成果と課題について、全教職員で共通理解を図ります。その上で、学校全体としての「伊達小学校児童の学力向上」に向けた取組を推進していきます。

◎国語…言語についての基礎的な知識・技能の定着を図り、適切に活用する力の向上

今後も、言語に関する事項を含めた基礎的な知識・技能の定着を図ります。また、国語科の学習を中心とした、全ての学習で言語活動を更に充実させます。その上で、事実と感想、意見とを区別して、適切に文章に書き表す力の向上を図ります。

◎算数…式の意味を確実に理解し、表や式、グラフなどを用いて数学的に表現する力の向上

今後も、正しく計算できる、図形の性質や定義を理解できるなど、基礎的な知識・技能の定着を図ります。また、式を立てる際には、その式になる理由を明らかにできるように、授業改善に努めます。さらに、複数の情報を整理したり関連付けたりする活動を通して、学んだことや分かったことを基にして、図や式、言葉などを用いて、相手に伝わるように表現する力の向上を図ります。

◎「わかった・できた・たのしい」から「やってみよう」へつながる授業。

特に算数について「好き」「よく分かる」と感じる子が非常に少なく、学校でも課題であると認識しています。児童にとって、「わかる授業」を心掛け、学習内容を確実に定着させ、その内容を活用しながら主体性をもって学習に臨むことができる授業改善に努めます。また、児童が互いに学び合い、高め合うことで理解を深めることができるよう、学習活動を工夫します。日々の授業で「わかった・できた・たのしい」を実感し、学習することが好き、やってみようと感じることができるようになります。

【ご家庭では…】

★自分で計画を立て、学習に取り組ましましょう。

家庭学習の時間が非常に少ないということが明らかとなりました。宿題以外の学習で、自分の課題や授業の予習、復習を中心として、家庭での学習の計画を自分なりに立てながら取り組むように声掛けをお願いいたします。

★ゆとりある生活リズムを心掛けましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」など、毎日の生活リズムを一定にし、ゆとりある時間を過ごせるようにしましょう。また、テレビの視聴時間やゲーム・インターネットをする時間やルールなど、お子さんとよく話し合い、ご家庭におけるルールを決めておきましょう。また、決めたルールは、しっかりと守る声掛けをしましょう。



★親子で「読書」してみませんか。

一日短時間からでもいいので、テレビやスマートフォンなどの電子機器を使わず、親子で一緒に読書の時間をとってみませんか。読書を通して、親子のコミュニケーションを図れるだけでなく、お子さんの語彙や言葉の選択肢も増えるなど、学習面の効果も期待できます。